

巻頭言

第31回 大阪府作業療法学会を終えて

第31回 大阪府作業療法学会 学会長 中川 正己
(大阪労災病院)

平成28年10月30日(日)に、大阪国際交流センターで第31回大阪府作業療法学会を「30年の歴史、次の世代へ!」というテーマで開催させていただきました。同日の開催となった大阪マラソンの影響が心配されましたが、秋晴れの快晴に恵まれたことが幸いし、府士会員306人、他府県士会員9人、学生39人、一般36人、合計390人の方の参加があり、成功の裡に閉会させていただきました。大変盛会であったことは、事務局および実行・運営委員をはじめ、大変うれしく、また誇りに思うところです。そして、大阪府作業療法学会が今後ますます発展する可能性も感じることができました。本当に有難うございました。

今学会では、2025年の少子高齢化問題にターゲットを当て、公開講座を2講演企画しました。まずは少子化問題(発達分野)に対しては、大阪大学大学院の片山泰一先生に「発達障がい早期気づきと支援」、一方の高齢化問題に対しては、九州保健福祉大学の小川敬之OTに「認知症を深く理解する～死ぬまで現役を支えるリハビリテーション～」と題して講演頂きました。いずれも、府士会員のみならず一般の方も多く、収容人員200名のホールに立ち見が出るほどであり、関心の高さが伺えたように思えます。その他、教育講演2企画、学術部研究報告会、推進事業(MTDLP)、学会特別企画「大規模災害時の作業療法士の可能性」、精神科分野シンポジウム2企画、体験コーナー(認知症カフェ)など、非常に盛りだくさんなプログラムとなりました。会場を回ってみますと、セッションによっては予想以上の集客があり、実行委員からはうれしい悲鳴も聞くことができました。また、あちこちで熱心に質問や討議がなされ、参加された方々にとって実りのある学会になったのではないかと思います。

一般演題では、身障分野から10演題、発達分野から6演題、生活行為向上マネジメント関連5演題、精神分野か

ら1演題の合計22演題が集まり、日頃の臨床実践や研究報告がありました。座長に関しては、座長経験のない方(経験の少ない方)から選考させていただき、学会テーマに示しますように「次の世代」への橋渡しの役割の一翼になったと考えております。

大阪府作業療法士会は2000名を超える会員の皆様によって支えられています。そして大阪府作業療法学会は、大阪府の会員の皆様が年に一度集まり、そして語り合うことのできる、とても大切な機会と考えております。次回の第32回大阪府作業療法学会が、松本茂樹学会長の下、今年以上に盛り上がれますよう会員の皆様のご協力をお願いいたします。

昨年末より、ほぼ1年にわたり大阪府作業療法学会に携わらせていただきました。学会開催に際して、実行・運営委員を始めとして多大なお力添えを頂きました。お礼を申し上げます。準備中、会期中、配慮不十分で、関係者の方々には何かとご不便、ご迷惑をお掛けしました。不行き届きに関しては、何卒ご寛恕賜りますようお願い申し上げますとともに、次回に向けてご意見お寄せいただければ深甚に存じます。今回の経験を、次世代へ繋ぐことも使命の一つだと考え、精進していこうと思います。



第31回 大阪府作業療法学会